

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 9 日現在

機関番号：32508

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25240052

研究課題名(和文) 未刊古文書積文作成のための協調作業環境の構築

研究課題名(英文) The creation of a collaborative, computer-supported transcribing system for medieval Japanese documents

研究代表者

近藤 成一 (Kondo, Shigekazu)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：90153717

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 36,100,000円

研究成果の概要(和文)：未刊古文書積文作成のための協調作業環境を構築することにより、未刊古文書の積文を歴史学のコミュニティにおいて協同で行うことを提起し、史料編纂のあり方について新たな可能性を模索するとともに、歴史学のコミュニティの実体形成にも寄与する基礎とした。積文作成のために外部から自由な書き込みを許す部分と、作成された成果を史料編纂所の管理のもとに公開する部分を構築し、前者から後者にデータを選択して移行するシステムを設けた。

研究成果の概要(英文)：The research group created a computer supported cooperative work system for transcribing medieval Japanese documents. This system has two sections. The first section is made in a Wiki format. Anyone can input data into this public section from the outside. Another section is placed under the management of the Historiographical Institute. The data entered in the first section is moved to the second, and it is presented to the public by the Historiographical Institute after being checked.

研究分野：日本史

キーワード：協調作業環境 古文書 積文 中世 史料 史料編纂所 大日本古文書 鎌倉遺文

1. 研究開始当初の背景

(1) 東京大学史料編纂所においては、1985-1987年度一般研究(A)「東京大学史料編纂所所蔵の影写本収載古文書検索システムの開発」により、古文書一点目録のデータベースシステムが構築された。その後、電算機の性能の向上と用途の拡大に対応してシステムを拡充し、一方、1993年度より毎年「研究成果公開促進費」の交付を受けて、2008年度までに影写本8,800冊収載の古文書の登録を完了し、データ数は21万件に達した。さらにこの事業を継承発展させるために、2005-2008年度基盤研究(A)「日本古文書ユニオンカタログの構築」により、1600年以前の古文書を網羅することを目指して、媒体を影写本に限定せず、より広い範囲から古文書情報を搭載する「日本古文書ユニオンカタログ」システムを構築した。2008年度末に従来の影写本収載分データを「日本古文書ユニオンカタログ」に移行し、2009年度からこの名称のデータベースに対して研究成果公開促進費の交付を受け、2012年9月には418,494件を公開していた。

(2) 2006年度に東京大学史料編纂所に前近代日本史情報国際センターが附設されたが、同センターは国立情報学研究所からの委託事業により、「鎌倉遺文バーチャルラボラトリ」を構築した。史料編纂所はこれより先に『鎌倉遺文』全文のデータベースを構築していたが、2009-2012年度基盤研究(A)「協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」によりバーチャルラボラトリ上の修正・追加を全文データベースに反映させるシステムを開発した。

(3) 東京大学史料編纂所においては、1994-1997年度基盤研究(A)(2)「日本中世古文書フルテキストデータベースの構築方法に関する研究」により「古文書フルテキストデータベース」の原型が構築された。古文書本文は二次元的であり、二次元的な文字の配置が様式上の意味を持ちうるにも関わらず、電算処理においてはそれを無理矢理一次元に落とし込んでいるため、その不備を補うために、『大日本古文書』所収の分についてはその版面を画像として提供するという便法が採られた。一方、『大日本古文書』等の組版にTeXを導入し、TeXデータをxmlデータに変換したものを印刷業者に納品させ、xmlデータを読み込んで全文データベースに搭載するという手順を確立していた。

2. 研究の目的

(1) 1600年(関ヶ原の戦いの年)以前の古代・中世文書のうち、未刊分の積文を作成する協調作業環境を構築し、一定の運用実験を行うとともに、史料編纂所歴史情報処理システムSHIPS上に位置づけることを、本研究の目的とした。

(2) 未刊古文書積文作成の協調作業環境を構築し、コミュニティによる自由な書き込み

を募ることにより、一方では、1901年の『大日本史料』『大日本古文書』刊行開始以来の史料編纂のあり方について、新たな可能性を模索するとともに、他方では、歴史学のコミュニティの実体形成に寄与することを意図した。

3. 研究の方法

(1) 未刊古文書積文を作成する協調作業環境を構築する前提として、積文作成をコミュニティに提案するための方法を検討する。

(2) 未刊古文書積文作成のための協調作業環境として「未刊古文書積文作成バーチャルラボ」を構築する。

(3) 「未刊古文書積文作成バーチャルラボ」により作成された積文を公開するための「未刊古文書積文フルテキストデータベース」を史料編纂所歴史情報処理システムSHIPS上に構築する。

(4) 「未刊古文書積文作成バーチャルラボ」上のデータを「未刊古文書積文フルテキストデータベース」に移行するためのシステムを構築する。

4. 研究成果

(1) 「未刊古文書積文バーチャル研究システム」を、メディアウィキを利用して構築した。



(2) 「未刊古文書積文フルテキストデータベース」を、史料編纂所歴史情報処理システムSHIPS上に構築した。



(3) 「未刊古文書積文VL管理システム」を構築した。同システムはユーザ管理とデータ移行の2つの機能を有する。

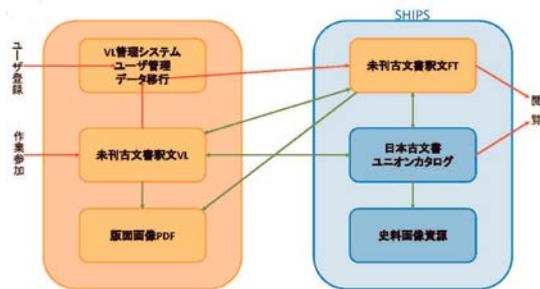




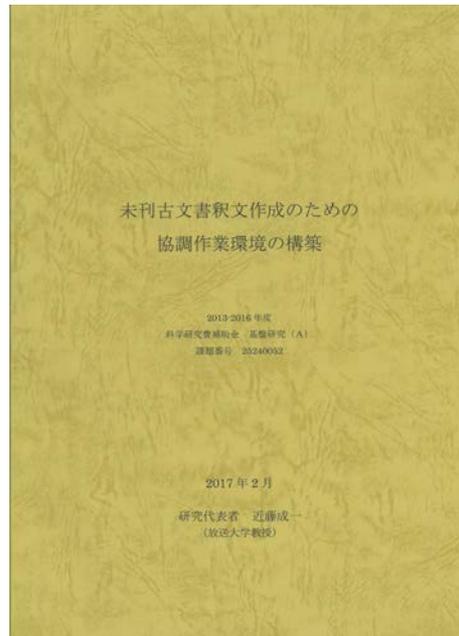
(4) SHIPS上の「日本古文書ユニオンカタログ」と「未刊古文書積文バーチャル研究システム」および「未刊古文書積文フルテキストデータベース」との連携をはかり、ユニオンカタログの利用者が未刊古文書積文作成の協同作業の成果を利用し、また協同作業に参加する便をはかった。



(5) 「未刊古文書積文バーチャル研究システム」とSHIPSとの関係を図のように位置づけた。



(6) 研究成果を報告書(総頁118頁)にまとめ、「研究の概要」、「未刊古文書積文バーチャルラボの構成」(近藤成一)、「東京大学史料編纂所における古文書データベースのあゆみ」(近藤成一)、「史料紹介 筒井寛秀氏所蔵文書」(西尾知己・遠藤基郎)を掲載した。「未刊古文書積文バーチャルラボの構成」において、本科研により構築してシステムの全体像を説明した。



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計26件)

- 1) 近藤成一、未刊古文書積文バーチャルラボの構成、未刊古文書積文作成のための協調作業環境の構築、査読無、2017年、pp. 9-17。
- 2) 近藤成一、東京大学史料編纂所における古文書データベースのあゆみ、未刊古文書積文作成のための協調作業環境の構築、査読無、2017年、pp. 18-24。
- 3) 近藤成一、朝河貫一と日本の歴史学界、朝河貫一と日欧中世史研究、査読無、2017年、pp. 114-128。
- 4) 西尾知己・遠藤基郎、〔史料紹介〕筒井寛秀氏所蔵文書、未刊古文書積文作成のための協調作業環境の構築、査読無、2017年、pp. 25-118。
- 5) 西尾知己・遠藤基郎、〔史料紹介〕東山御文庫勅封二八函二一四「東大寺文書」、日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充、査読無、2017年、pp. 44-66。
- 6) 稲葉伸道、建武政権の寺社政策について、名古屋大学文学部研究論集、査読有、史学 63、2017年、pp. 117-146。
- 7) 本多博之、豊臣政権の次夫・次馬・次飛脚・次船制について、内海文化研究紀要、査読無、45号、2017年、pp. 1-24。
- 8) 金子拓、戦国時代の出羽庄内と信長・秀吉、通史の中の庄内(鶴岡市立図書館・鶴岡市郷土資料館)、査読無、2017年、pp. 1-30。
- 9) 遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎、綱光公記一文安六年(宝徳元年)四月～八月記、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、27号、2017年、pp. 106-117。
- 10) 石田実洋・遠藤珠紀・尾上陽介・高橋秀樹、『山槐記』古写本の解題と翻刻、東京大学史料編纂所研究紀要、査読有、27号、2017

年、pp. 76-92。

- 11) 山田太造、企画セッション「構築したシステムのゆくえ」の概要、研究報告人文科学とコンピュータ (CH)、査読無、2017-CH-113、2017年、pp. 1-3。
- 12) 渡邊正男、「洞院家廿卷部類」原写本紙背文書について、古文書研究、査読有、81号、2016年、pp. 56-76。
- 13) 海老澤衷、棚田と水資源を活用した楠木正成、環境に挑む歴史学、2016年、pp. 94-106。
- 14) 金子拓、Unexpected Paths: Gift Giving and the Nara Excursions of the Muromachi Shoguns, Mediated by Gifts: Politics and Society in Japan, 1350-1850 (Brill・LEIDEN/BOSTON)、査読無、2016年、pp. 24-47。
- 15) 金子拓、なぜ、柴田勝家と惟住(丹羽)長秀は秀吉に先を越されたのか、ここまでわかった本能寺の変と明智光秀(洋泉社)、査読無、2016年、pp. 148-162。
- 16) 金子拓、天正年間興福寺別当の日記について—『尋憲記』と『東北院兼深記』—、東京大学史料編纂所研究成果報告、査読無、2016-3、2016年、pp. 93-124。
- 17) 金子拓、秀次事件の真相、秀吉の虚像と実像(堀新・井上泰至編、笠間書院)、査読無、2016年、pp. 288-299。
- 18) 金子拓、豊臣秀頼の諱をめぐる史料、古文書研究、査読無、81号、2016年、pp. 125-128。
- 19) 金子拓、本能寺の変の「時間」と情報—太陽コレクションに寄せて—、大信長展(一般財団法人太陽コレクション)図録、査読無、2016年、pp. 6-11。
- 20) 西田友広、東大寺宝珠院所蔵絵図から見た鎌倉時代後期の尼崎地域、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、27号、2016年、pp. 1-9。
- 21) 遠藤珠紀、誠仁親王の死去と「陽光院御登遐記」の成立、古文書研究、査読無、82号、2016年、pp. 139-141。
- 22) 山田太造・遠藤珠紀・荒木裕行・井上聡・久留島典子、前近代日本史史料から人名を集める、じんもんこん 2016 論文集、査読有、2016、2016年、pp. 159-164。
- 23) 山田太造、トピックモデルを用いた日本史史料テキストの分析手法、建築雑誌、査読無、2016年11月号、2016年、pp. 36-37。
- 24) Taizo YAMADA、Classification and Representation of Scenes in Field Note by Spatiotemporal Characteristics Using Linked Data, Proceedings of PNC 2016 Annual Conference and Joint Meetings、査読有、2016年。
- 25) 山田太造、史資料からの地理空間情報の収集と管理に関する考察、研究報告人文科学とコンピュータ (CH)、査読無、2016-CH-111、2016年、pp. 1-6。
- 26) Taizo Yamada, Satoshi Inoue、A Management of Personal Name with Alternate Name and its Searching for Japanese Historical Study, Proceedings of Digital Humanities 2016、査読有、2016年、pp. 716-717。

〔学会発表〕(計28件)

- 1) 近藤成一、史料編纂所の歴史家たち、立教大学文学部史学科主催公開シンポジウム「史学科の比較史—草創期から1945年」、2017年3月10日、立教大学(東京都・豊島区)。
- 2) 高橋敏子、世界記憶遺産「東寺百合文書」—国家の寺、地域の寺—、長野県立長野高校金鶏会講演会、2017年3月10日、長野県立長野高校金鶏会館(長野県・長野市)。
- 3) 金子拓、「惣無事令違反」を考える—奥羽の事例から—、戦国史研究会、2017年2月18日、駒澤大学(東京都・世田谷区)。
- 4) 山田太造、電子くずし字字典データベースにおける現状と展望、第2回CODHセミナーくずし字チャレンジ～機械の認識と人間の翻刻の未来～、2017年2月10日、国立情報学研究所(東京都・千代田区)。
- 5) 山田太造、史資料と考古資料を利用していく環境、第113回人文科学とコンピュータ研究会発表会、2017年2月4日、愛知工業大学本山キャンパス(愛知県・名古屋市)。
- 6) 金子拓、「惣無事令違反」を考える、中央史学会中世部会、2017年1月25日、中央大学(東京都・八王子市)。
- 7) 山田太造、前近代日本史史料から人名を集める、人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2016」、2016年12月11日、国立国語研究所(東京都・立川市)。
- 8) 近藤成一、中世初期の王権と支配エリート—政治制度と文書の機能—、ボン大学DFG共同研究センター1167、2016年12月10日、ボン大学(ドイツ連邦共和国)。
- 9) 近藤成一、関東武士の西遷、直実・蓮生を学ぶ会、2016年12月3日、熊谷市立熊谷図書館(埼玉県・熊谷市)。
- 10) 山田太造、東京大学史料編纂所における日本史史料の収集とその管理、東アジア日本研究者協議会第一回国際学術大会、2016年11月30日、Songdo Convensia・Incheon(韓国)。
- 11) 金子拓、長篠の戦い後の織田信長と本願寺、白山史学会、2016年11月26日、東洋大学(東京都・文京区)。
- 12) Taizo YAMADA、An example of Collection and Digitalization of Materials Related to Japanese History, Workshop on the Academic Asset Preservations and Sharing in Southeast Asia、2016年11月20日、PULLMAN BANGKOK GRANDE SUKHUMVIT(タイ)。
- 13) 近藤成一、中世日本の王権・日本中世政権の性質、浙江大学歴史系、2016年11月2日、浙江大学(中華人民共和国)。
- 14) 金子拓、戦国時代の出羽庄内と信長・秀吉、鶴岡市郷土資料館歴史講演会、2016年10月30日、鶴岡市立図書館(山形県・鶴岡市)。
- 15) 遠藤基郎、史料編纂所閲覧室での東南院文書の高精細画像の提供、正倉院文書研究会第35回定期研究会、2016年10月29日、奈

良女子大学（奈良県奈良市）。

16) 近藤成一、天皇の生前譲位と鎌倉時代の政治、浙江大学歴史系、2016年10月25日、浙江大学（中華人民共和国）。

17) 金子拓、様変わりした落合左平次道次背旗（鳥居強右衛門磔刑図）について、新城市設楽原歴史資料館開館20周年連続講座、2016年10月15日、新城市設楽原歴史資料館（愛知県・新城市）。

18) 海老澤衷、中世文書から荘園景観を見る、日本古文書学会大会、2016年9月26日、早稲田大学井深ホール（東京都・新宿区）。

19) 海老澤衷、新見荘の鉄年貢とたたら生産、岡山県立博物館、2016年9月24日、岡山県立博物館講堂（岡山県・岡山市）。

20) 山田太造、Text structure of Japanese history historical materials and effort for applying TEI in Historiographical Institute of the University of Tokyo, The 1st International Workshop on Models of Japanese Texts and TEI、2016年8月31日、東京大学経済学研究科交流棟（東京都・文京区）。

21) 山田太造、東京大学史料編纂所における史料情報とその管理、第2回ナショナルデジタルアーカイブ研究会、2016年8月27日、国立国会図書館東京本館（東京都・千代田区）。

22) Taizo YAMADA、Classification and Representation of Scenes in Field Note by Spatiotemporal Characteristics Using Linked Data、PNC 2016 Annual Conference and Joint Meetings、2016年8月17日、The Getty Center（アメリカ合衆国）。

23) 山田太造、史資料からの地理空間情報の収集と管理に関する考察、第111回人文科学とコンピュータ研究会発表会、2016年7月30日、福江文化会館（長崎県・五島市）。

24) 本多博之、天下統一とシルバーラッシュ、石見銀山研究会、2016年7月16日、島根県大田市。

25) Taizo YAMADA、A Management of Personal Name with Alternate Name and its Searching for Japanese Historical Study、Digital Humanities 2016、2016年7月15日、The Jagiellonian University（ポーランド）。

26) 遠藤基郎、採訪史料画像データベース構築における今後の課題、基盤研究S「マルチアーカイヴァル的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究」（代表保谷徹）・東京大学史料編纂所日本史情報国際センター共催公開研究会「東京大学史料編纂所のデジタル画像検索閲覧システムの現状と課題」、2016年6月23日、東京大学史料編纂所（東京都・文京区）。

27) 近藤成一、鎌倉の幕府と京都の朝廷、学びの杜セミナー、2016年6月21日、放送大学東京文京学習センター（東京都・文京区）。

28) 金子拓、長篠の戦いと真田家、続・古典を読む―歴史と文学、2016年5月14日、長野県立長野高校（長野県・長野市）。

〔図書〕（計10件）

1) 佐藤信・近藤成一編、放送大学教育振興会、日本の古代中世、2017年、288頁(144-208・257-270)。

2) 海老澤衷・近藤成一・甚野尚志、吉川弘文館、朝河貫一と日欧中世史研究、2017年、310頁(114-128、129-169)。

3) 近藤成一編、近藤成一（放送大学）、未刊古文書積文作成のための協調作業環境の構築、2017年、118頁(1-24)。

4) 西田友広、吉川弘文館、悪党召し捕りの中世―鎌倉幕府の治安維持―、2017年、215頁。

5) 山家浩樹・高橋則英・谷昭佳・白岩洋子・竹内涼子・高山さやか・山口孝子・三木麻里・岡田愛・山田太造・井上聡・木下聡・宮崎幹子・小島浩之・新井浩文、勉誠出版、文化財としてのガラス乾板、2017年、262頁(180-183)。

6) 橋本政宣・岸本眞實・金子拓・遠藤珠紀、八木書店、兼見卿記、2016年、295頁。

7) 遠藤珠紀、笠間書院、秀吉の虚像と実像（堀新・井上泰至編）、2016年、408頁(210-221)。

8) 西谷大・久留島浩・三上喜孝・園原謙・後藤真・五島敏芳・戸田健太郎・関野樹・山田太造・小倉慈司・青山宏夫・渋谷綾子・齋藤努、吉川弘文館、〈総合資料学〉の挑戦、2017年、180頁(98-113)。

9) 石塚晴通・山田健三・佐藤栄作・岡崎裕剛・横山詔一・斎木正直・賈智・井上幸・方国花・山下真里・萩原義雄・守岡知彦・須永哲矢・堤智昭・藤本灯・高田智和・ガリーナ・ヴォロビヨワ・ヴィクトル・ヴォロビヨフ・永崎研宣・馬場基・宮崎肇・高田祐一・未代誠仁・石塚晴通・高田智和・池田証壽・安岡孝一・井上聡・山田太造、勉誠出版、漢字字体史研究 二、2016年、432頁(395-419)。

10) 野村朋弘・比企貴之、八木書店、史料纂集 氏経卿神事記 第一、2016年、294頁。

〔その他〕

ホームページ等

<https://cliojhd.hi.u-tokyo.ac.jp/mikan/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近藤 成一 (KONDO, Shigekazu)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：90153717

(2) 研究分担者

海老澤 衷 (EBISAWA, Tadashi)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：60194015

稲葉 伸道 (INABA, Nobumichi)

名古屋大学・文学研究科・教授

研究者番号：70135276

本多 博之 (HONDA, Hiroyuki)
広島大学・文学研究科・教授
研究者番号：30268669

柳原 敏昭 (YANAGIHARA, Toshiaki)
東北大学・文学研究科・教授
研究者番号：30230270

高橋 敏子 (TAKAHASHI, Toshiko)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：80151520

遠藤 基郎 (ENDO, Motoo)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：40251475

渡邊 正男 (WATANABE, Masao)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：80230994

(3) 連携研究者

神野 潔 (JINNO, Kiyoshi)
東京理科大学・理学部・准教授
研究者番号：40409272

野村 朋弘 (NOMURA, Tomohiro)
京都造形芸術大学・芸術学部・准教授
研究者番号：00568892

金子 拓 (KANEKO, Hiraku)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：10302655

西田 友広 (NISHITA, Tomohiro)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：90376640

遠藤 珠紀 (ENDO, Tamaki)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：10431800

山田 太造 (YAMADA, Taizo)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：70413937

(4) 研究協力者

岡本 隆明 (OKAMOTO, Takaaki)
京都府立京都学・歴彩館主任